

平成27年度愛媛大学大学院連合農学研究科入学式 式辞

春らしい温かい季節となりました。連合農学研究科を構成する愛媛・高知・香川の三大学を代表して、入学された15名の皆さまを心より歓迎いたします。また、ご多用の中をご列席いただきました、ご家族そしてご関係の皆さま方にも心よりお祝いを申し上げます。

入学生の中には、社会人として活躍しながらも、大学院での研鑽を志して入学された方々、生活環境の違うわが国で研究することを決断された留学生の方々も少なからず含まれています。これらの方々には、学業以外の面で多くのご苦労があることとは思いますが、試練を乗り越えられ、所期の目標を成就されることを願っております。

愛媛大学大学院・連合農学研究科は、愛媛大学、香川大学および高知大学の農学部が連携し、21世紀を担う優れた人材を育成することを目的として設置され、すでに30年の歴史を重ねています。先見性と独創性のある研究を通して地域に役立つ人材を養成すること、世界各地から優秀な留学生を積極的に受け入れ将来を担う研究者を育成することを大きな使命とし、人類と自然環境とが調和する持続可能な社会の構築に貢献することを目指しています。皆さまには、この連合農学研究科博士課程への入学を機に、新たな課題に果敢に挑戦し、学術の発展に貢献するとともに、自立した研究者に成長していただくことを期待いたしております。

さて、20世紀における科学技術の進歩は豊かな生活と長寿社会とを実現しましたが、同時に人類や地球環境に多大な負の影響も与えました。近年では、新興国の経済発展の結果として生じた原材料資源の異常な高騰や食糧難、CO₂排出量の急激な増加による温暖化の進行などが、世界に大きな不安を与えています。このような社会的背景の中、わが国においては、地方の疲弊、中央と地方の格差拡大が国の将来を脅かす要因となっています。特に、就

業者の高齢化に伴って、地域の一次産業基盤は、現在、崩壊の危機にあります。今こそ、農山漁村に新たな価値を創り出し、若者に「田園回帰」を促すようなパラダイムシフトが必要と思われます。

それには、大学を中心とする「科学技術イノベーションの創出」が不可欠です。まさに、‘ Be innovative! ’、われわれが中心となり、進取の精神の中で時代を変えていかないとはいけません。近年、植物工場での生産管理や物流クラウドなどに象徴される農業のIT化、CRISPR-Cas9のような画期的な遺伝子改変技術の農作物への応用など、新たな技術革新によって一次産業基盤に地殻変動が起きつつあります。連合農学研究科においても、「食料生産の知能化・6次産業化」、「医農連携による機能性食品の開発」、「農村地域の水環境問題の解決」などをテーマに、その強みを生かした教育研究を展開し、その成果を地域へあるいは世界へと発信していかねばなりません。

今、地域がイノベーションの主役になる時代が訪れようとしています。地方国立大学の存在意義は地域を担う人材の育成にあり、その学術研究の成果は、産業振興や町づくり、あるいはコミュニティの再活性化を通じて、地域に還元されるべきです。入学された皆さま方には、是非、その一翼を担われ、若い力で地域を活性化していただきたいと願っています。ただし、真のイノベーションを引き起こすためには、研究者が現場に赴き、多面的な視点から地域課題を理解することが不可欠です。修了後は、一人でも多くの皆さまが resident researcher として地元の企業や研究機関に残られ、地域創生に携わってくださることを願っております。

最後にもう一度、Be innovative! 斬新なアイデアと考え方で地域社会を次のステージへと導きましょう！連合農学研究科に入学された皆さまの大いなる飛翔を祈念し、式辞といたします。

平成27年4月13日

愛媛大学長 大橋 裕一